

茨木市議会議員

あびこ浩子

ゆめ・みらい通信



連絡先：（あびこ浩子事務所）茨木市中穂積3丁目1-35

TEL&FAX 072-601-0569

（自宅）茨木市穂積台12-503

ウェブサイト：<http://www.hcn.zaq.ne.jp/abiko-h/>

東北大震災復興支援への祈りと エネルギー問題で節電対策に思うこと ～私たちの声が第一です～

みなさま、いつもお世話になっております。あびこ浩子です。

東北大震災から4カ月近くが経過しようとしています。これまでにない大規模な災害の後で、なかなか復興が進まない様子が報道でも伝えられています。季節が移り、暑い夏の気温は、瓦礫の中のもの腐らせているという話や、学校や体育館で過ごす方々には冷房設備もなく熱中症が心配されています。

この国が今後どんなエネルギーを主軸に経済や暮らしを打ち立てていくのかが問われています。

驚いたことに、先日電気店に足を運ぶと、なんと！？扇風機が殆ど姿を消していました。まだ、エアコンは残っているのですが、冷風機やら扇風機は棚が空っぽになっている様子に愕然としました。15%節電と言われて、この夏を乗り切るためにみなさんが扇風機を求められているということでしょう。節電への覚悟を見た思いです。

市役所でも15%削減を目標に電灯が間引きされ、薄暗く、クーラーも28度設

定で汗をかきながらの毎日です。いっそクーラーを止めて、窓を開け自然の風と濡タオルで過ごす方がすっきりするかもと、扇風機を購入するために電気屋さんいき、先の売り切れに会った次第です。

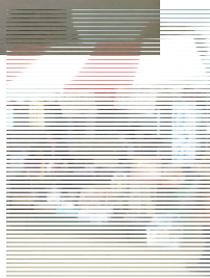
一度には原発から脱せなくても、少しずつでも様々なエネルギーに取り組み、分散させながら進んでいけるよう、再生可能エネルギーを取り入れる条件整備を進める為の政治が求められています。大事なことは原発と共に暮らすのか、電気を減らした暮らしをするのか、国任せにせず私たち自身が決めるときなのではないでしょうか。

電力の課題は、企業活動にも大きく影響し、海外に拠点を移したり海外企業に生産を求めたり、日本経済にそして何より雇用に深刻な影響が考えられます。政治の力が何より求められる今です。国会の報道を見ながら、素早い対応を願ってやまない毎日です。

【あびこ浩子プロフィール】

- ◆玉櫛小・南中卒業／1980大阪府立千里高校卒業／1984関西大学文学部卒業／2008大阪市立大学大学院創造都市研究科共生社会研究分野修士課程修了、大学時代銭原キャンプ場でカウンセラーとして活動
- ◆1984高槻市立第7中学校教諭／1987茨木市立三島中学校へ転任1990退職／2000沢池幼稚園PTA会長／2002穂積小PTA会長／2006茨木市PTA協議会会長／2004NPO法人 Chacha-House 代表理事/2006穂積小校区青少年健全育成運動協議会会長／2006NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事
- ◆2008・4茨木市議会議員補欠選挙で初当選／2009・1茨木市議会議員選挙で2期目当選
- ◆茨木市議会議員／夫、長女（大4）次女（大1）・長男（高2）の5人家族

2011年6月定例議会報告



福祉ネットワークの再構築について

～PART 2～

「みんな集まれボランティア」にて

＜あびこ浩子の実感＞

- 今こそ、地域力の出番だと実感します。
- どんなことがあっても、みんなで知恵と力を出し合える、そんな「まち」だと良いな。
- 身近なまちで防災の街づくりには地域での繋がりが欠かせません。

3月議会に引き続き、7月から実施となる「公民館等への相談窓口設置のモデル実施」に関して、現在のCSW（コミュニティソーシャルワーカー）を中心にした『いきいきネットワーク事業』との関係について質問いたしました。

7月より「地域の身近な相談窓口」としてモデル的に沢池公民館、西公民館で「相談窓口」が設置されます。民生委員さんを中心に窓口で相談にのっていただけるようになります。このことについて、豊中市が行っている、CSWが専門家としてバックアップしながら地域での相談拠点を設置し、みなさんの交流や支え合いの場があることで、更に支援が強化されている取組と同様であるかを改めてお聞きしました。

答弁は「広報いばらき」にも掲載されますが、これまでの体制とは分けて考えるということと、CSW（現在活動中）の機能を今後は市が

直営で行うとのことでした。

市が直営で相談を受けることは、何より公務として責任が優先されるので、皆さんには安心感があるでしょう。しかしながらCSWが生まれた経緯を振り返りますと、課題として、行政の力だけではどうしてもできない支援の「すきま」に落ちる方々が存在すること。「すきま」を埋める為に、専門家のCSWと民生委員さんたちが一緒になって地域での見守り支援体制が構築され、大きな成果を上げてきたことは民生委員さんによる「CSWアンケート」が示すとおりです。民生委員さんたちの頭の下がる地道な支援の積み重ねをCSWが支えて来たこの6年。今後は市の直接支援に戻ることで「すきま」がどうなるのか、そのために民生委員さんのしんどさと責任が重くならないかを心配しています。現在策定中の(仮称)地域福祉総合計画の策定懇談会でこの不安が議論されることを期待しています。

第10号

震災避難者の受け入れについて（地域力こそ力です）

今回の震災で、東北地方から親せきや知人を頼って茨木市に避難してこられた方々を受け入れ、支援する体制について質問いたしました。

東北地方へ人的な支援や物的な支援を市役所全庁をあげて行われましたが、今回は「被災者の受け入れ」を初めて実施することになりました。

住まいもなく着の身着のまま来られている方々に、市からは市営住宅の斡旋や、各種支援事業の紹介などがおこなわれました。当初は慣れない中、連絡体制がうまくいかない場面などもありましたが、徐々に進みました。しかし結局最後に力を発揮し

たのが地域の力でした。

市営住宅（総持寺団地）にて入居が始まりました。地域で相談できる場として「総持寺いのち愛ゆめセンター」の相談員さんやCSWを中心にした三島地区いきいきネットの民生委員さん、福祉委員さん、自治会の皆さんが親身に生活を支えておられます。3月に避難してきて、4月から地元の学校に通うことになり、友達が出来るのか不安を抱える子どもさんに、同年代のお友達を紹介し、声かけしたりしていただきました。これは行政ではできないことです。

人の繋がりや支え合う気持ちが、何より力になると実感しました。



茨木西高校での保育交流、地域のお母さんたちと一緒に

巷で話題の・・・

再生可能エネルギー（太陽光発電の取組について）

東日本大震災の発生、東京電力福島第一原子力発電所の事故とそれに伴う電力需要のひっ迫などにより、改めて再生可能エネルギーへの期待が高まっています。

自然エネルギーの「実用性」への挑戦として、実用化の壁を打ち破り、自然エネルギーを社会の基幹エネルギーにまで育て、発電電力量に占める自然エネルギーの割合を2020年代の早い時期に少なくとも20%を超える水準になるよう技術革新に取組方針を菅首相が提示しました。太陽電池の発電コストを2020年には現在の3分の1、2030年には6分の1にまで引き下げ、日本の設置可能な1千万戸の屋根すべてに太陽光パネルの設置を目指すとして語りました。また、基幹エネルギーとして育てるには採算性を高めることが不可欠です。

「自然エネルギーで発電した電気を固定価格で買い取る」制度を閣議決定し、国会に提出しました。この法案が成立し、採算が取れる水準に価格が設定されれば風力や太陽光発電の拡大に大いに期待できます。一方で、導入拡大には出力の不安定性をカバーするための蓄電池の設置や出力抑制等の系統安定化対策が必要となります。

